

# 早期発見・治療から予防の時代へ...

医療の基本は疾病の早期発見と早期治療にあります

サンライズ通信

夏季号

6月から不安定な天気が  
続いていますか  
いかがお過ごしでしょうか。



そろそろ梅雨明けですが、梅雨明けの7月中旬から激増し7月下旬にピークを迎える病気が熱中症です。特にご高齢の方や持病のある方、ふだんから運動をせず暑さに慣れていない方は要注意です。80歳に熱中症重症例のピークがありますが男性では55歳にもう一つのピークがあります。屋外での肉体労働の影響です。また、屋内発症例には高齢かつ重症者が多いという特徴があります。口渇、倦怠感、めまいなどの症状が出現し熱中症を疑ったら涼しい場所に移動し市販のスポーツドリンクなどを飲まれると良いでしょう。熱中症は予防可能な病気です、みなさんも十分に注意しましょう。

診療事業部 医師 花本 貴幸

水分補給は  
こまめにね!!



## 低線量肺がんCT 検診開始に当たり

現在、日本人におけるがん部位別死亡率で肺がんは男性で1位、女性で2位であり、大腸がんとともに高い死亡率を示します。肺がんは進行の早い悪性腫瘍で発見された時点で全身に広がっていることが多く、「治る段階（早期に）」で発見することが大切になります。肺がん検診では胸部X線検査、喀痰細胞診が一般的に行われていますが、高分解能CT検査による病変発見率は、胸部X線検査に比較して10倍近く高いと言われており、胸部CT検診を行う施設が増えています。そして当院では64列マルチスライスCT装置を用いた低線量肺がんCT検診を開始しました。マルチスライスCTはX線を照射する管球1個に対し、画像を構成する検出器が64個（多列）配列され、同時に64枚の撮影を行い撮影時間の短縮ができます。また最新の被ばく低減技術を搭載し、実効線量で1mSv（ミリシーベルト）という超低線量（通常行われるCT検査の10分の1

程度）で検査が可能であり、「検査をより早くより低い被ばく線量」で実施することができます。また検査精度においては全肺野高分解能撮影/HRCT（スライス厚2.0mm）で実施し、通常のCT検査（スライス厚10mm）では不明瞭な肺実質変化（気腫性変化、すりガラス陰影、間質性変化、浸潤影など）の詳細な観察が可能で、直径数ミリの非常に小さい早期病変も発見ができます。当院では大腸がんの死亡率減少をめざし、平成23年に全国に先駆け大腸CT検査（CTcolonography）専門施設を建設し、現在までに全国トップクラスの3,000症例の検査を実施し、高い検査精度を維持して参りました。そしてさらに早期肺疾患の発見に有効性が高い低線量肺がんCT検診を導入し、大腸がんとともに高い死亡率が問題となっている肺がんの死亡率減少をめざし、皆様の健康維持に貢献して参ります。

診療事業部 國枝 栄二

## ～ ホタルのいる風景 ～



先日、当クリニック職員の自宅近くで、ホタルが見頃だという話を聞き、さっそく妻と子供を連れて見にいきました。岐阜市のとある団地の外れに小川が流れていて、その周辺に無数のホタルが乱舞していて幻想的でした。近くに田んぼがあり、良き昔の原風景にタイムスリップしたかのように自分も童心に戻れました。昨今、環境破壊が進みホタルの数も減少しています。ホタルを守ろうと活動している地域もありますが、人が手を加えてやっと生息数を維持しているようです。

ただ、ここのホタルは人が手を加えると少なくなるらしく、かえって自然に放置した方が多く飛ぶのだそうで、現在は自然繁殖に任せているそうです。もう20年以上前になりますが、郡上八幡で鮎釣りを終え、帰り支度をしていると辺りが真っ暗になりました。その時自分の車の周りに、数百匹のホタルが乱舞していた光景が今でも忘れられません。このあいだ久しぶりにホタルを見て懐かしく思い出し、いつまでもこの風景が残って欲しいと思う、少しセンチな自分がいました。



健康管理事業部 堀江 浩司

## スタッフ紹介

診療事業部 技師部門主任 荒川 好美



- ・放射線技師
- ・主な業務 外来検査・ドック（マンモグラフィ・超音波検査）
- ・自己紹介 診療事業部・技師主任となりました荒川です。技師として技術の提供だけでなく、笑顔と安心もご提供できるよう心掛けております。

健康管理事業部 受付事務主任 加藤 瑠菜



- ・主な業務 ドック・健診受付事務
- ・自己紹介 健康管理事業部の受付事務主任の加藤です。明るく丁寧な対応を心掛けています。みなさまの受診をお待ちしております。